

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101066		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム勝占		
所在地	徳島県徳島市勝占町松成43-1		
自己評価作成日	平成26年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

脳トレを積極的に行い、職員手作りの脳トレに皆さん熱中して取り組まれている。新しく作った物にもチャレンジされ、入居者様同士が協力して1つの脳トレを完成させている。また、脳トレ中に家族様が面会に来られた際には、家族様も一緒に参加される等、家族様と入居者様との交流も図れている。毎月の壁面飾りは入居者様と職員が協力してその季節や月に沿った物を製作し、入居者様の楽しみの1つにもなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った介護老人福祉施設の5階に位置している。同一法人の運営する医療機関や他事業所に囲まれて立地している。事業所は2ユニットあり、それぞれの共用空間は広く、手作りの壁面飾りや行事の写真、習字作品等を飾っている。さらに、事業所では、職員手作りの“脳トレーニング”にも取り組んでおり、家族の来訪時にはともに取り組んだり、利用者同士で協力しあったりして積極的に取り組んでいる。また、敷地内には同一法人の運営する医療機関や関連事業所が多数あり、特に医療面においては密に連携を図っている。管理者と職員は、法人内・外の研修会に積極的に参加するなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り掲げている。エレベーター前に掲示すると共に、職員は名札の裏にも理念を書いたものを入れ、常に理念を念頭におき業務にあたるよう努めている。	事業所では、独自の理念を作成してエレベーター前に掲示している。また、職員は名札の裏にカード状の理念を携帯するなどして共有化を図っている。事業所独自の年間目標や月間目標を定めるなどの工夫も見受けられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りに出かけ、近隣住民と交流する場を設けたり、散歩に出かけ地域の方と会った際には挨拶や言葉を交わしている。	毎年、事業所には秋祭りの御神輿の来訪がある。併設の同一法人の運営する医療機関には、事業所内保育所があり、行事のときには子どもたちとの交流を行っている。大正琴やフラダンスのボランティアの来訪も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めたり、老人会等で話しをさせてもらう場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、地域住民代表者・入居者様のご家族様・徳島市地域包括支援センター担当者が出席してくれている。現状報告や意見交換を行い、出席者から出た意見は積極的に取り入れ、サービスの質の向上を目指している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民の代表者等の出席を得ている。会議時に出された意見は、日頃のサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは行き来することは少ないが、疑問点が生じた際には電話や直接尋ねるようにしている。	事業所では、定期的に職員が市担当窓口を訪問して報告書を提出するようにしている。相談があるときにも、窓口へ出向いて情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH内で身体抑制禁止委員会を立ち上げ、勉強する場を設けている。また、旧館と新館は自由に行き来が出来るよう扉の施錠は行っていない。	事業所内に“身体拘束抑制禁止委員会”を組成している。毎月、全職員で委員会活動を行い、身体拘束をしないケアや事例について学んでいる。2つのユニットでは、利用者が自由に行き交うことができる。玄関は、安全面に配慮しつつ、日中開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことを念頭に業務にあたっている。また、勉強会を開催し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に日常生活自立支援事業を利用されている方がおり、職員も学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や改定の際にはゆっくりと時間を取り、内容を読み上げ説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口担当者、解決責任者をおき、重要事項説明書に明記、契約時に何かあればいつでも相談して欲しいことを伝えている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで一人ひとりの意見を聞くようにしている。家族の来訪時には、意見等を表出しやすい雰囲気づくりに努めたり、積極的に話しかけたりするようにしている。3か月に1回、家族へお便りを送付するときにも、意向を出してもらえよう工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りやカンファレンス・申し送りノートを活用し職員の意見を聞き、取り入れるようにしている。	管理者は、日頃の業務や毎週の各部門会議、申し送り等の機会に、職員の意見を聞くようにしている。管理者と職員間で情報を共有し、運営面やサービスに反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を見極め役割を持つことで、やりがいを持ち意欲的に業務に就くことができると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に積極的に参加し、知り得た情報を職員全員で共有できるよう報告する機会を設けている。また同じ職員ばかりが行くのではなく、順番に行けるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加を通して、他事業所の職員と交流する機会を設けている。また、交流することで良い刺激を受け、サービスの質の向上に繋がると考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、本人の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、家族の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今何を必要としているかを見極め、意向に沿った対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と衣食住を共にすることで、入居者自身も役割を持ち生活していただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員と家族が情報共有できるような会話・近況報告を行い、本人の事を一緒に考える時間を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や兄弟・友人の面会もあり、また家族の協力の下、自宅へ帰ったり、馴染みの店へ買い物に出かける時間を持つことができている。	事業所には、利用者の馴染みの友人の来訪がある。事業所として、利用者一人ひとりのこれまでの関係を継続することができるよう支援している。また、家族の協力を得たうえで、定期的に馴染みの場所への買い物や一時帰省の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で誘い合い新館まで散歩に行ったり、一緒に協力をし合って家事や脳トレに取り組む等、日常的に関わり協力し合えていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても退居された先へ会いに行ったり、相談等があれば話しをお伺いし、退居されても関係を断ち切らない支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から希望や意見を聞くよう努めている。また家族から話しを聞くことで本人の今までの暮らしや思いを汲み取り、日常生活の中に取り入れるようにしている。	職員は、利用者との関わりを通じて、一人ひとりの希望や意見を把握するよう努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族に聞くなどして本人本位の支援となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴をお聞きし、職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を通して、日々の体調管理を行うと共に、個々の生活リズムを掴みその人らしい暮らしが送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の面会時に意見や要望をお聞きし、本人の意見も確認しながら介護計画を立てている。	利用者や家族に意見や要望を聞いたうえで、介護計画を作成している。3か月に1回、モニタリングを行っている。利用者の心身状況に変化があった場合には、随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は電子カルテに記載し、職員間での閲覧が可能となっている。また申し送りやノートを活用することで職員間で情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養や同敷地内の多様なサービス担当者と連携を図りながら、様々なニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に取り入れたり、戸外に出かけたりとホーム内のみならず外にも目を向けた支援を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いし、納得のいく医師に診ていただくことが可能である。	入居時の段階で、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。眼科や耳鼻科等の他科を受診する際には、家族の協力を得たうえで支援している。日頃から、併設事業所の看護師と連携を図りつつ支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養に看護師がおり、緊急時の対応を始め、24時間相談・助言を求めることが可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同敷地内に病院を併設しており、入院時には情報提供を行いスムーズな入院・情報把握ができるよう努めている。また、担当者と連携を図りながら、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の主治医と連携を図りながら、入居者・家族の意向をお伺いし、最善の支援を考えるよう努めている。	入居時の段階で、利用者や家族へ終末期に関する支援方針等を十分に説明している。主治医と連携を図りつつ、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。緊急時には、同一法人の運営する医療機関と連携を図り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には看護師に相談したり、同敷地内の病院を受診し対応している。ホーム内でも緊急時の対応等について勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災避難訓練を実施している。消防署立会いの下訓練を実施し、指導を仰いでいる。また、運営推進会議の際に地域の方と話し合う機会を設けている。	事業所では、年3回、全職員で避難訓練を実施している。火災や地震を想定した訓練となっている。また、同一法人の運営する併設の医療機関との合同訓練も実施しており、事業所や施設ごとに識別の合図を決めるなどして実践的な内容となっている。事業所の1階には、災害時に備えて備蓄品を用意してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪室時には必ずドアをノックし中に入ったり、排泄等の声かけもプライバシーや羞恥心を損ねないよう心がけている。	日頃から職員は、利用者との関わりを通じて、尊厳やプライバシーを損なうことが無いよう留意している。年1回、全職員でプライバシーに関する研修会を開催するなどして、日頃の支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の希望を聞いたり、決定する機会を設けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないよう、入居者本位を心がけ対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には長年愛用している化粧水や乳液を使用したり、お化粧をする機会も設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にも台拭きや引き膳・もやしのひげ取り等手伝っていただきながら、食事が楽しみの1つとなるよう心がけている。また、職員も一緒に会話をしながら食事を摂っている。	事業所では、利用者一人ひとりの力に応じて、テーブル拭きや引き膳等の役割を担ってもらっており、職員とともに実践している。また、利用者と職員でおやつをつくらせている。献立は併設事業所の管理栄養士が立てている。主催の調理も併設事業所で行っているが、その他は事業所で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の毎食量、水分量をチェックしている。献立は管理栄養士と相談し、栄養バランスの取れた献立となっており、個々に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて歯磨きが可能な方は行っていたり、難しい方は義歯洗浄等職員が行っている。また、歯科衛生士による口腔ケアも実施しており、不調時には歯科医の往診も可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある方は、その都度トイレ誘導し、訴えの難しい方は定期的に声かけトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、的確なトイレ誘導を行うよう努めている。また、トイレでの自立した排泄に向けて、本人の意思を尊重しつつ、声かけや誘導等の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう水分補給を心がけると共に、適度な運動を促している。また主治医と相談の上、内服薬も処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴していただいている。体調不良や行事等で入浴できない場合にも時間帯や曜日を変更し、入浴していただけるようにしている。	事業所では、週3回、一日おきの入浴を設定している。利用者の希望や体調等に応じて、時間や曜日を柔軟に対応している。一番風呂は希望が多いため、順番で入ってもらうことができるよう調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人が状況に応じて睡眠がとれるよう配慮している。また、夜間なかなか眠れない場合には、ホールで一緒にテレビを観たり話しをし時間をかけ入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬の内容がすぐに確認できるよう、常に目のつく所に薬の説明書をまとめたファイルを保管している。また、調剤薬局の薬剤師とも連携を図り、相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の出来る事、楽しみ事を見出し日常生活の中に取り入れるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて、外出できるよう努めている。また、家族様の協力の下本人の馴染みの場所にも出かけることができている。	利用者一人ひとりの希望に応じて、散歩や近隣の買い物等の外出を支援している。家族の協力も得るなどして、馴染みの場所へ一緒に出かけたり、外出したりすることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者からお預かりしているお金は金庫で保管している。買い物に行った際にはその中から自分で支払ってもらったりと、自分でお金を使う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用出来るようになっている。公衆電話が1階にしかない為、詰所の電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節の作品や月のカレンダーを飾り、建物内に居ても季節感を感じることができるよう配慮している。また、テレビの音や音楽の音、空調にも配慮し、快適に過ごすことができるよう心がけている。	事業所の共用空間には、ソファや畳の間を設置するなどして、利用者が好きな場所で過ごすことができるよう配慮している。また、季節を感じるができるよう四季の飾り付けを掲示したり、利用者の作品や展示物をたくさん配置したりしている。ホールは広く、また廊下の隅々まで清掃が行き届いており、居心地良く過ごすための空間作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを囲むようにそれぞれの居室が配置されており、ホールにはソファのコーナーとテーブルのコーナー・畳スペースを設け、好きな場所で過ごせるようになっている。また日当たりが良く、日向ぼっこをする姿を度々見る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具・小物類・写真を持ってきていただき思い思いの居室作りをしていただいている。	事業所では、居室に利用者の使い慣れた物を持ち込んでもらっている。利用者によっては、思い出の写真や絵、小物等を持ち込んでおり、家庭的な雰囲気がある。利用者一人ひとりにとって居心地良い居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、車椅子や歩行器でも安全に移動できるようになっている。またホールや居室トイレには手すりも設置している。トイレの場所に迷う方には大きな張り紙をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り掲げている。エレベーター前に掲示すると共に、職員は名札の裏にも理念を書いたものを入れ、常に理念を念頭におき業務にあたるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに出かけたり、地域の方のボランティアの受け入れを行っている。散歩中、近隣の方との挨拶や会話が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めたり、老人会等で話しをさせてもらう場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、地域住民代表者・入居者様のご家族様・徳島市地域包括支援センター担当者が出席してくれている。現状報告や意見交換を行い、出席者から出た意見は積極的に取り入れ、サービスの質の向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは行き来することは少ないが、疑問点が生じた際には電話や直接尋ねるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH内で身体抑制禁止委員会を立ち上げ、勉強する場を設けている。また、旧館と新館は自由に行き来が出来るよう扉の施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことを念頭に業務にあたっている。また、勉強会を開催し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に日常生活自立支援事業を利用されている方がおり、職員も学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や改定の際にはゆっくりと時間を取り、内容を読み上げ説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口担当者、解決責任者をおき、重要事項説明書に明記、契約時に何かあればいつでも相談して欲しいことを伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りやカンファレンス・申し送りノートを活用し職員の意見を聞き、取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を見極め役割を持つことで、やりがいを持ち意欲的に業務に就くことができると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に積極的に参加し、知り得た情報を職員全員で共有できるよう報告する機会を設けている。また同じ職員ばかりが行くのではなく、順番に行けるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加を通して、他事業所の職員と交流する機会を設けている。また、交流することで良い刺激を受け、サービスの質の向上に繋がると考える。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、本人の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、家族の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今何を必要としているかを見極め、意向に沿った対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と衣食住を共にすることで、入居者自身も役割を持ち生活していただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員と家族が情報共有できるような会話・近況報告を行い、本人の事を一緒に考える時間を持つようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や兄弟・友人の面会もあり、また家族の協力の下、自宅へ帰る時間も持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士お部屋を行き来したり、一緒に協力をし合って家事を行う等、日常的に助け合う場面を見ることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても病院へ会いに行ったり、相談等があれば話しをお伺いし、退居されても関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から希望や意見を聞くよう努めている。また家族から話しを聞くことで本人の今までの暮らしや思いを汲み取り、日常生活の中に取り入れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴をお聞きし、職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を通して、日々の体調管理を行うと共に、個々の生活リズムを掴みその人らしい暮らしが送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の面会時に意見や要望をお聞きし、本人の意見も確認しながら介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は電子カルテに記載し、職員間での閲覧が可能とたっている。また申し送りやノートを活用することで職員間で情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養や同敷地内の多様なサービス担当者や連携を図りながら、様々なニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に取り入れたり、戸外に出かけたりとホーム内のみならず外にも目を向けた支援を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いし、納得のいく医師に診ていただくことが可能である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養に看護師がおり、緊急時の対応を始め、24時間相談・助言を求めることが可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同敷地内に病院を併設しており、入院時には情報提供を行いスムーズな入院・情報把握ができるよう努めている。また、担当者と連携を図りながら、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の主治医と連携を図りながら、入居者・家族の意向をお伺いし、最善の支援を考えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には看護師に相談したり、同敷地内の病院を受診し対応している。ホーム内でも緊急時の対応等について勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災避難訓練を実施している。消防署立会いの下訓練を実施し、指導を仰いでいる。また、運営推進会議の際に地域の方と話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪室時には必ずドアをノックし中に入ったり、排泄等の声かけもプライバシーや羞恥心を損ねないよう心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の希望を聞いたり、決定する機会を設けるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないよう、入居者本位を心がけ対応するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする機会も設けたり、髪をカットしたり新しい洋服を着た時等、声をかけおしゃれへの意欲を高める工夫を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にも台拭きや引き膳・もやしのひげ取り等手伝っていただきながら、食事が楽しみの1つとなるよう心がけている。また、職員も一緒に会話をしながら食事を摂っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の毎食量、水分量をチェックしている。献立は管理栄養士と相談し、栄養バランスの取れた献立となっており、個々に応じた食事形態で提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて歯磨きが可能な方には行っていた。また、歯科衛生士による口腔ケアも実施しており、不調時には歯科医の往診も可能となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある方は、その都度トイレ誘導し、訴えの難しい方は定期的に声かけしトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう水分補給を心がけると共に、適度な運動を促している。また主治医と相談の上、内服薬も処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3～4回入浴している。体調不良や行事等で入浴できない場合にも時間帯や曜日を変更し、入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人が状況に応じて睡眠がとれるよう配慮している。また、夜間なかなか眠れない場合には、ホールで一緒にテレビを観たり話しをし時間をかけ入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の説明書は1冊のファイルにまとめ、すぐに確認できる場所に保管している。調剤薬局の薬剤師とも連携を図り、相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴を把握し、趣味や楽しみ事を日常生活の中に取り入れるようしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて、外出できるよう努めている。また、家族様の協力の下本人の馴染みの場所にも出かけることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		入居者からお預かりしているお金は金庫で保管している。買い物に行った際にはその中から自分で支払ってもらったりと、自分でお金を使う機会を設けている。また、ご自分で管理している方もいる。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		電話は自由に使用出来るようになっている。公衆電話が1階にしかない為、詰所の電話を使用している。また、手紙を書くのが趣味の方がおり、ハガキや便箋を購入してきたり、ポストへ投函する等支援を行っている。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		ホールの壁には季節の作品や月のカレンダーを飾り、建物内に居ても季節感を感じることができるよう配慮している。また、テレビの音、空調にも配慮し、快適に過ごすことができるよう心がけている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ホールを囲むようにそれぞれの居室が配置されており、ホールにはソファのコーナーとテーブルのコーナーを設け、好きな場所で過ごせるようになっている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		自宅で使用されていた家具・小物類・写真を持ってきていただき思い思いの居室作りをしていただいている。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		建物内はバリアフリーとなっており、車椅子や歩行器でも安全に移動できるようになっている。またホールや居室トイレには手すりも設置している。トイレの場所に迷う方には大きな張り紙をしている。				